

# よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出します。(ヨハネ 4:14)



▲アトリエにて

暗いニュースが  
次々と続いた  
テレビを止めて  
テレビの上の  
水仙の花と  
あんずの花に  
心が和む  
神さま  
あの人々に  
隣れみと恵みを

水野源三

水野源三 第四詩集「天国をめざして」より  
(作者は重度障害者で、「隣りの詩人」として知られています)

質問室 問、七六歳になる元長距離トラックの運転手です。糖尿病が悪化して入院を繰り返して、今は車いすの生活。3年前に妻に先立たれ、子どもとは疎遠。訪問介護を受け、やっと生きていますが、孤独と死の不安で夜も眠れません。

答、彼は若い頃から大型トラックのドライバーとして自分の力に頼り、社内では無事故運転の記録を伸ばして、何度も表彰され、物流界のキャリアスマと言われてきました。しかし健康管理には無関心で、暴飲暴食、不規則な深夜運転の仕事を続け、中年になって体を壊し、生活習慣病が表面化して来ました。家庭を顧みず、家族との良い関係を築いてこなかったツケは、助けが必要となった時、家族にそばを向かれ、孤独と不自由さの中に置かれました。人は自分が播いた物を刈り取ることになるのです。

の危機にさしかかると、それまで意識していなかった人生を問いただすときが訪れます。誰の中にもある奥深い魂の不安、死への恐怖は表面化する厳粛な魂の叫びなのです。先進諸国の高齢者介護の重要な部分には「スピリチュアルケア」魂の介護」が取り入れられていて、キリスト教ではこれを重視し対応しています。イエス・キリストは「すべて、疲れ

## 親と子のしあわせ 379



我が家の三人の子どもたちは、大学一年生、中学三年生、小学六年生と、それぞれ成長しました。昨年は長男の大学受験でしたが今年も長女の高校受験です。その我が家の子どもが幼稚園生だった時に、私の友だちが見学がてら幼稚園に遊びに来ました。そのお母さんにもS君とR君という二人のお子さんがおられて、話す中で何度か「Sは、ばかだから」とか、「Sは、本当に悪い」とか言っておられました。深い意味で言われたわけではないでしょう。たしかに三〜四歳児は、しなくていいこ

とをしますから。でもお母さんの言葉をそばで聞いていた当時の園長先生が、「お母さん、そんなにバカだとか悪いとか言っちゃいけませんよ。子どもは何度も言われると自分はバカだから仕方がないとか、自分は悪い子なんだから良い子にはなれないと思いますよ」と優しく言われました。そのお母さんは大変反省されました。その後お母さんは、優しい良い若者に成長されています。私も反省しました。日ごろ軽い気持ちで、子どもに「バカね」とか「ダメね」と言っています。そのマイナスの言葉を聞き続けたり、やはり、子どもは「自分はバカなんだ。ダメなんだ」と思ってしまうかもしれません。

神の御子イエス・キリストは、すべての人の罪と死の審きを身代わりとなってその身に受け、十字架にかかり、死んで三日目によみがえって、罪を帳消しにし死に打ち勝ち、永遠の命を与えてくださったのです。今からもう一度若いときの健康を取り戻し、社会で活躍するチャンスは与えられません。しかしあなたの内に宿しているいのちは、永

私の母は、そんなに褒めてくれる母ではありませんでしたが、私が小学三年生の時に家庭訪問で来られた先生に、「この子は、本当に家の手伝いを良くしてくれれます。いつお嫁に出してもいいくらいです」と言ってくれました。親ばかもいところですが、でも忘れられないです。手伝うのが嫌で遊んでいて、母に怒られてむくれていたこともあったのに、母は先生の前で私を褒めてくれたのです。言葉にはすごい力があります (相原幸紀美)

\*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

発行所 奈良県生駒市門前町七十四〇 日本ミッシェン 〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇九三〇二六四三番

発行人 ファベイ・D 編集人 日本ミッシェン編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇 〒350-0303 新生宣教団印刷部 電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 八〇〇円 定価 一部 一五円

### 希望の光 — 解決への道 —

滋賀県彦根市 宇野 繁 博

高校時代の英語の先生にアコがれて、子供が大好きな私は小学校の教員になりました。しかし、わずか6年でその職を辞さなければならなくなったのです。難病(網膜色素変性症)により視覚障害者になったのです。



▲妻と共に、イスラエルの荒野にて

### 視覚障害に

私は一九六四年二月に福井県で生まれ、二五歳の時、難病(網膜色素変性症)により、視覚障害の身となりました。当時小学校の教員をしていた私は、退職を前提とした休職となり、3年後、余儀なく退職しました。

高校時代にすばらしい英語の先生と出会い、私も先生のようになりたいと夢を持ち、地元の小学校に就職しました。そして、将来は中学校で英語を教え、大好きな野球の指導もしたいと色々な夢がありました。わずか6年でその職を辞することとなったのです。私は、幼い子供達の純粹さがとても好きでした。そのような子供達と別れなければならなくなり、また当時結婚を考えていた女性とも別れることになりました。彼女も小学校の教員で、一緒に教材研究をしたり、スポーツを楽しむんだり親しくなり、お互い結婚を意識するようになり、しかし、私が視覚障害の身となり、将来の見通しが全く立たない中でその関係はもろくも崩れていったのです。約3年間の交際でした。

### 消えてしまいたい

仕事ができなくなり、車の運転は勿論のこと、新聞さえも読めない状況の中、親戚のある人から、障害者がいると、息子の縁談にも影響するかもしれないという内容の話をお聞きした時、私は人生に絶望し、生きていく力が完全になくなりました。自殺をする勇氣はありませんでしたが、できることならば、ナメタジのように自分自身を塩をかけて消えてしまいたいと思いました。人前で涙を流すことはありませんでしたが、夜になり布団にはいると自然と涙がこぼれました。これほどの涙がどこにあるのだろうかと思うほど、毎晩、涙はとめどもなく流れました。

### かあちゃんと一緒に死のう

ね。」私はこの言葉を聞いた時、体が震えました。母はまだ四八歳でした。目が見えなくなり、何もできなくなった私のような者に対して、母は自身の命を捨ててもかまわないとまで言ってくれたのです。母は私の気持ちをよく理解してくれていました。私以上に

### 新年おめでとうのプレゼントも。

母の方がつらかったかもしれませんが、私にとって母の言葉は、大きな励ましとなり、母の気持ちに伝えるため、母のため、そして、自分自身のためにも精一杯生きていこうと決心しました。

二五歳の春、はり灸マツサージの資格を取得するために、盲学校へ入学。その後盲学校の教員資格を取得したのです。一方、母は、私のために1円でも多くのお金を残してやりたいと、無理をして働くようになり、母はいつも「親として、お前にしてやれることは、お金を残してやることしかできないんだよ。繁博のことを考えると、夜も眠れない。だからこうして働いて、体をくたくたにしないでと眠ることができないんだよ」と言いました。そのような大きな身体的、精神的ストレスを抱えて生活をする内、癌が発症。母は五五歳で亡くなりました。私が三二歳の時です。私の将来をとても心配しながらの母の死でした。

### 自己中心こそ罪

私は三〇歳の時、再就職の道が開け盲学校の教員になり

ましたが、三五歳の時、家族の人間関係の問題で悩み教会へ行くようになりました。牧師先生が私の悩みを聞いてくださり、人間の罪についてわかりやすく教えてくださりました。「人間関係で悩んでいる宇野さんは、自分を中心に物事を考えています。それがキリスト教で言う罪というものです。極端な言い方をすれば犯罪なども自己中心の結果です。これからは、自分を中心に生きるのではなく、神様を中心として生きることが宇野さんの人生に大きな祝福をもたらします。聖書を読んでみてください。今の宇野さんの問題にも必ず解決の道が与えられますよ。」

視力を失ったあと、すぐに教会へ連れて行ってもらった時は、神を信じることはできませんでしたが、この時は先生の言葉がストリートに心に入ってきて、イエス様を信じたいという気持ちになりました。聖書を読むようになり、また、キリスト教伝道のテレビ番組「ライフライン」を通して紹介された、インマヌエル彦根キリスト教会に集うようになり、

二〇〇五年二月一日に洗礼を受けました。

### 神の御業を楽しむに

北陸のある盲学校のクリスチャンのH先生と、電話で話をした時のことです。「宇野君は、ヨハネの福音書の9章を読んだことがありますか。」「いえ、まだ読んだことがありません。どのようなことが書いてあるかを簡単に教えてください。」「あ、ね、イエス・キリスト様が道の途中で生まれつきの盲人を御覧になったのです。そして、弟子達が尋ねました。どうしてこの人は生まれつき目が見えないのですか。本人が罪を犯したからですか。それとも、両親が罪を犯したからですか。この弟子の質問に対して、イ

エス・キリスト様は、次のようにお答えになりました。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」(ヨハネ9・3) 宇野君のこれからの人生にも神様の御業が現されるからね。希望を持ってイエス様を信じて、楽しみにしているといいよ。」

4年前にあるクリスチャン女性と知り合い結婚しました。毎週日曜日、夫婦そろって教会の礼拝に出席できることは私にとって大きな喜びであり、神様からの恵みです。家庭の中心は常にイエス様で、それ故、私の家庭は平和です。「一切の乾いたパンがあつて、平和であるのは、ごちそうと争いに満ちた家にまさる。」(箴言17・1)



「神は、種類にしたがって野の獣を、……造られた。」創世記1:25